



「かばんの産地・豊岡で

ものづくりに挑戦する」



株式会社由利
製造部 主任
しみず まり
清水 真里さん
(豊岡市)

滋賀県大津市で両親が教師の家庭に生まれた清水さん。大学卒業後は日本最大のかばん産地の豊岡へ1ターン就職。

就職先は、国内36万本、海外42万本を年産する大手かばんメーカー、株式会社由利。就職を機にはじめて一人暮らしを始め、2年前に同僚と結婚。現在、入社11年目を迎え、生産管理、資材裁断、部材加工の3部門の責任者となり、さらにいいものづくりを目指して、邁進中です。

小さい頃の目標と大学進学

両親二人とも小学校の教師でしたので、子どもの頃は、学校の先生になると漠然と思っていました。ただ、もの

をつくることに興味があり、小学校の図工や絵を描く授業が好きだったことを覚えています。

中学、高校は普通科でしたが、大学は京都女子大学の家政学部生活造形学科に進学しました。「建築・インテリア」コースを選択しましたが、中でも、製図などものづくりの時間が一番楽しかったです。自分自身、設計に興味を持つ周りの学生とは違うなと感じていました。

1ターン就職を決めるまで

就職活動も、周りのほとんどが設計事務所を目指す中、私は家具やアクセサリなどものづくり関係の会社ば

りを回っていました。平成の年は就職超水河期のまったただ中、株式会社由利に内定をもらったのは、卒業2カ月前の1月でした。

由利の名を知ったのは就職サイトで。よくわからないまま就職説明会のため、滋賀から電車に乗り、途中、田畑ばかりとなりどんどん山奥に入っていく、一体どんなところにたどり着くのか不安が増すばかりでした。ようやく着いた豊岡駅周辺は、賑わっていて安堵しました。

説明会の日、最終面接まであり、その日、家に帰るとすぐに「この会社で決めた」と両親に言いました。これまで自分が決めたことに対して親から反対や禁止をされたことはなく、このときも反対はなかったのですが、あとから

父に、「すごい勢いで決めたな」と驚かれました。

初めて親元を離れての生活で、一人暮らしへの憧れや自立したいという思いがありました。何よりも、由利を知れば知るほど入社してよかったという思いが強くなりました。仕上りの良さだけでなく引きつけられるデザインなど商品が魅力的で、海外にも工場があり、国内外で世界的に最も権威のある「iFデザイン賞」をはじめいくつも賞を取っている。地方にこんな素敵なものづくりを進めている会社があるのだと感動しました。

社員の方には、就職説明会の日、雪の中、駅前で見板を持ち案内していただき、帰りは駅まで送ってもらい、とてもうれしかったです。実は、九州や

北海道からなどインターン就職している社員がすごく多い会社なので、不安はあまりなかったです。

現在の仕事内容

入社11年目になります。提携工場の納期・品質管理業務を担当してきました。以前、提携工場は12社ありましたが、現在は5社まで減りました。経営者が高齢で引退したり、新型コロナウイルスの影響もあります。

各工場が生産量の減少に伴い多品種小ロット生産にシフトした結果、いろいろなトラブルが増えました。私は解決策を示したり、未然に防止することに取り組んでいます。

提携工場とは共存共栄と日ごろから社長に言われていて、何かトラブルが



製造現場での打ち合わせ

起これば、他の業務より優先して解決に走っています。

今年から、この管理業務に加えて資材の裁断部門と金具など部材の加工部門の業務を任されています。いずれも責任者の立場ですが、一人で3部門を見ることは社内でも数少ないです。それだけに各部門が一層連携できて、いいものづくりを実現できるよう体制を整えることが当面の目標です。

つらかったこと、うれしかったこと

つらかったことは、入社3〜5年目のときです。本社工場の生産ラインを任されて、指示ミスなどがきっかけで、その生産ラインは赤字が続ぎ、頭を悩ませていました。自分では間違っていないと思っていました。自分でできていると自ら認めることができたのが3年たつてから。そう気持ちを切り替えたことで、一つずつ問題を解決でき、黒字に転換できました。私のことを見守って育ててくれた会社に感謝しています。

うれしかったことは、自社の商品を持っていく方を見かけたときです。街を歩くと無意識に人のかばんに目が行ってしまいます。



由利の鞆

インターンして気づいたこと

豊岡は夏は蒸し暑く、冬は雪が多くて寒いですが、新鮮な魚や野菜など食の宝庫です。また住んでいる人の人柄も温厚でなにかと気を遣ってもらい生活するにはまったく問題はありません。大阪や鳥取、神戸などいろいろなところにもすぐ行けます。実家にも、この前開通した日高豊岡南道路など高速道路を通れば2時間半で帰ることができま

す。兵庫には、北から南まで地域の特色があつて、城崎温泉、神戸の街、姫路城、宝塚歌劇など魅力が随所にあります。しかしあまり知られていないと思

います。兵庫県鞆工業組合も豊岡かばんの認知度向上に努めています。私は就職するまで豊岡がかばんの産地と知りませんでした。地域や企業の魅力が伝われば、もっとインターンが増える可能性があると思います。

これからの目標

2年前には同じ製造部の同僚と結婚しました。宝塚出身の彼も製造部の所属です。今は豊岡市内で二人暮らしです。将来の共通の目標として、自分たちで考えたものをつくりたいと思っています。その目標に向けて、中古ですが思い切って、1台15万円のミシンを購入しました。この会社で働き続け、この豊岡に住み続け、目標を実現したいと思っています。

【(株) 由利ホームページ】

<https://yurikk.com/>



【兵庫県鞆工業組合】

<https://www.toyooka-kaban.jp/>



真夏の
アツい!!
運試し

サマージャンボ

1等前後賞合わせて
7億円
1等5億円、前後賞
各1億円

7億円

当せんのチャンス広がる!
サマージャンボ
ミニ

5千万円

1等前後賞合わせて5,000万円
1等3,000万円、前後賞
各1,000万円

この宝くじの収益金は、
市町村の明るく住みよい
まちづくりに使われます。

PCやスマホで
ネット購入!



宝くじ公式サイト

<https://www.takarakuji-official.jp/>

サマージャンボ & サマージャンボミニ



7月13日(火) 同時発売

各1枚 300円

発売期間/7月13日(火)~8月13日(金)
抽選日/8月25日(水)

「サマージャンボ」宝くじの売上金の約4割は、
市町の住みよいまちづくりに使われています。
各都道府県の販売実績等に応じて交付されて
いますので、ぜひ兵庫県内の宝くじ売場
又はインターネットでお買い求めください。

■問い合わせ先:(公財)兵庫県市町村振興協会
☎ 078-322-1151

大手前駅徒歩3分 ひょうご出会いサポート 東京センター

行政 が真剣にマッチング!
リーズナブルで安心・安全です!

恋活婚活



©兵庫県 2007

- ♥ 兵庫県が婚活をサポート
- ♥ リーズナブルで安心・安全
※費用5,000円/年 (20代は3,000円)
- ♥ スマホでお相手探し
※20歳以上の独身の方



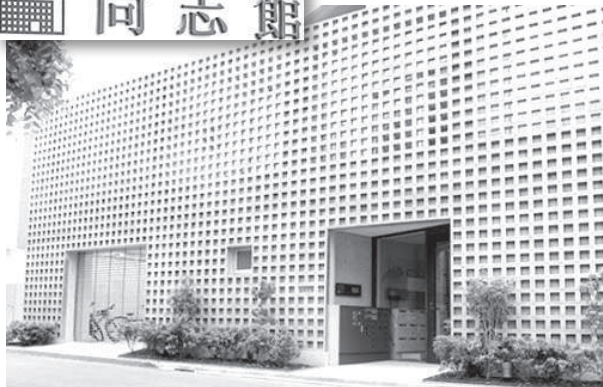
検索

ひょうご出会い

TEL 03-6262-3035

開館 火・水・金・土/10:15~18:30

住所 東京都千代田区大手町2-6-2
パソナグループ本部ビル3F



尚志館だより



尚志館は、東京・渋谷に所在する、
兵庫県出身の学生向けの男子寮。

尚志館のOBは現在、政界・財界・法曹界・マスコミなどの
各分野において目覚ましい活躍をされています。

そんな尚志館の現役入寮生を紹介します!

①兵庫県（子供の頃）の思い出

小学校の頃は、やんちゃでした。親もこの子は将来ヤンキーになるのではないかと心配していたようです。一方で数字に興味がありました。算数が大好きで、勉強していてもそれが苦になることはありませんでした。まあ、普通の子供といえば、そんなものだと思います。あとは比較的、女の子にモテたような気がします。パレタインデーにはチョコを沢山もらいました。当時はホワイトデーにお返しをしませんでしたが、今では彼女に「倍返し!」を心掛けています(笑)

②現在学んでいること

語学はイタリア語を選択しています。尚志館では二人部屋なので同室の平野俊介君に英語を教えてもらい、僕が数学を教えたりして互いに補完し合っています。コロナ禍ですが、検温やマスク・消毒を心掛けていますので不安はありませんね。凄く快適です。

③将来の夢

理学部に進んで、数学科を目指しています。できれば博士課程後期まで進学したいです。そうすると尚志館には最低でも7年間在館することになりそうです。理学部は別名「就職無理学部」とも言われていますので気長に行きます。僕は楽観的なので、あまり不安はありません。



町田 宇弥

芦屋市出身
県立神戸高校卒
東京大学理科I類（2年生）



越智 幸平

宝塚市出身
市立西宮高校卒
青山学院大学教育人間科学学部（2年生）

①兵庫県（子供の頃）の思い出

子供の頃は土木作業が大好きでした。スコップで公園などの地面をひたすら掘りまくりました。ついには地中の水道管に辿りつき、そこにまで穴を開けてしまい、噴水騒ぎを巻き起こしました。周辺の住宅では断水となってしまい、水道局の人たちに怒られました。それでも懲りない僕は児童公園に堀を巡らそうと思いつき、せっせと工事を始めました。ついには深さ40cm、長さ約18mの堂々たる堀が完成しました。出来上がってみるとやはり空堀はつまらんなーと思い、そこにホースを引いて水を入れたものだから、公園中が水浸しになって、また水道局や市役所の人たちに怒られました。その後も懲りずに、別の公園では池と池との間を結ぶ運河の開通を目論むなど、数々の騒動を引き起こしました。そんな訳で、宝塚市には大変ご迷惑をお掛け致しました。この場を借りてお詫び申し上げます。

②将来の夢

こんな僕なので、周囲は土木工学を学ぶのか、あるいはただの人夫で人生を終えるのかと思っていたようですが、小学校の教員を目指しています。

入寮対象者は、兵庫県居住者の子弟（男子のみ）で、首都圏の大学に進学する者で、明治8年（1875年）、旧篠山藩主直系青山忠誠氏が国家有用の人材養成のため、郷里の優秀な子弟を赤坂の自邸に起居させたのが始まり。

昭和32年8月、現所在地に新たな建物を建築するとともに、入寮者の対象を多紀郡のみから兵庫県下全域に変更し、設置主体の名称を「兵庫県育才会」、寮名を「兵庫県学生寮・尚志館」とした。

所在地：東京都渋谷区代々木5丁目50番11号
（4階建て・延べ床面積524.31㎡）

連絡先：03-3466-1992（平日 13:00-17:00）

メール：aoyama@bizdesign.co.jp



ののの会の皆様、いかがお過ごしでしょうか？世話人の中西は緊急事態宣言の中、会社への出勤を週1程度に抑え、ほぼほぼテレワークの日々を過ごしています。

この1年余りを振り返ると、令和2年度はののの会としての活動が何も無いままに月日が経過していきました。しかし「このままではイカン！」と1月ごろになって思い立ち、年度末に急遽オンラインで勉強会を開催しました（やるのが遅いとお叱りが聞こえてきそうです・・・笑）

またこの先行例が弾みとなり、5月の県人会主催のオンラインセミナーへと結びつきました。今回はそんな2つのセミナーの裏側をご紹介します。

5月13日(木)
開催

ふるさとひょうごふれあいセミナー

ふるさとひょうごふれあいセミナーは、ののの会ではすっかりお馴染みのみなと銀行東京支店にあるMポートより配信を行いました。

こちらは配信こそZOOMを使って行いましたが、実は撮影機材はプロ仕様で、より鮮明な画質と音声で県人会員の皆さんに視聴をしていただけるようにしました。

事務局から「ライブ配信ができる会社を知りませんか？」と相談があり、真っ先に私の頭に浮かんだのは、ののの会のメンバーで動画制作会社「チェリービー」の代表：山口正人さん（洲本市出身）でした。

山口さんと私はかつて、私の取引先からの依頼で一緒に動画を制作したこともあるので、彼なら間違いのないであろうと思い協力をお願いしました。

セミナーの運営をスムーズにするために事前にMポートを視察し、LANの有無やレイアウトなどを確認。天井にある換気口の音を気にした山口さんにはプロならではの気づきだなど関心をしたものでした。

当日はセミナー開始90分前に集合。テンポよく準備を進めて行く山口さんは颯爽としていました。

おかげでトラブルなく配信は無事終了。一同、胸を撫で下ろしたのであります。

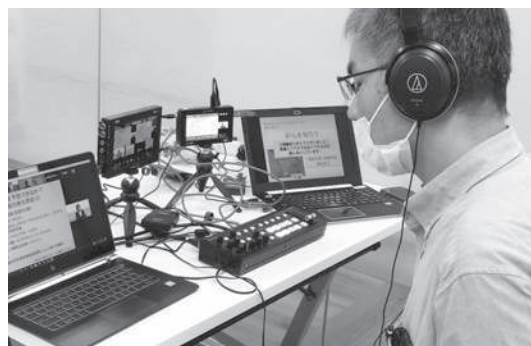
やり終えた感がある中で、飲みに行けないのがなんとも残念でした。



最終チェックを念入りにする山口さん



カメラの操作も担当。三井さんの落ち着いた司会ぶりは印象深かったですね～



配信中は常にモニターと音声チェックに気を配っていました

「ののの会」
（中堅・若手会員交流会）

連絡先 info@hyogo-kenjinkai.jp
担当 片岡 誠

（文・写真 ののの会世話人：中西豪）

(中堅・若手会員の会)



2018年5月の「出石そば」の勉強会の1コマ。こんな風に皆さんと集える日が1日も早く戻ってきてほしいですね。勉強会場としてお世話になった「チャイナ白魂」もコロナの影響で閉店しました。

3月12日(金)
開催

リモートで行けたら行くわ！勉強会

行けたら行くわ！勉強会としては、2019年10月の「明石焼」の勉強会以来、1年5か月振りの開催となりました。

リモート開催は県人会／のののの会共に初の試みとなることから、事務局の皆さんのご協力の下、事前にテスト配信をしたり、メールでの案内の仕方を考えたり、PCが得意ではない方への対応をどうするか？といった課題を1つ1つ解決していきました。

当日は兵庫県東京事務所の所長室から配信。部屋の壁には兵庫五国連邦のポスターが貼ってあったのですが、これがカメラ越しのちょうど良い背景となりました。

開始時刻前よりアクセスして下さった方々とは近況報告をしあうなど、リモートと言えどもいつもの和気あいあいとした雰囲気！

講師は竹村所長（当時）。テーマは「データで見る兵庫のすがた～人口の推移が示す社会の変化～」で、2060年の兵庫のすがたを紐解いていくというものでした。

参加者の皆さんは、ご自身の出身地の未来がどうなるかに言及されるたびに一喜一憂をされたのではないのでしょうか？

人口減社会の中、予測される未来は各自治体にとって厳しいものである一方で、希望の灯となる取り組み等の紹介もあり、示唆に富んだ勉強会となりました。

私（中西）は、竹村さんが冒頭におっしゃった「実は私たちの大切な仕事で多くの時間を費やすのは数字を読み込み分析、将来に向けてどう備えるか？何をやっていくかなんです。」という言葉が、印象に残りました。

当日は回線が切れる、参加者のマイクがONになってハウリングが起きるといった、オンラインセミナーにありがちなトラブルもなく、無事に終わることができると共に、WEB開催への手応えを感じる有意義なものとなりました。

のののの会では、今しばらくはこうした形での勉強会の開催を模索していくつもりです。



左列中央の片山さんは家路へと急ぐ中、しばし路上で視聴



穏やかな語り口、でも鋭い見立て。竹村さんカッコよかったです！



急な講師の依頼を快諾いただき、立派な資料もご用意くださりありがとうございました



竹村さんも私もモニター越しとはいえ、皆さんのお顔を欠々に拝見することができ、テンションが上がりました